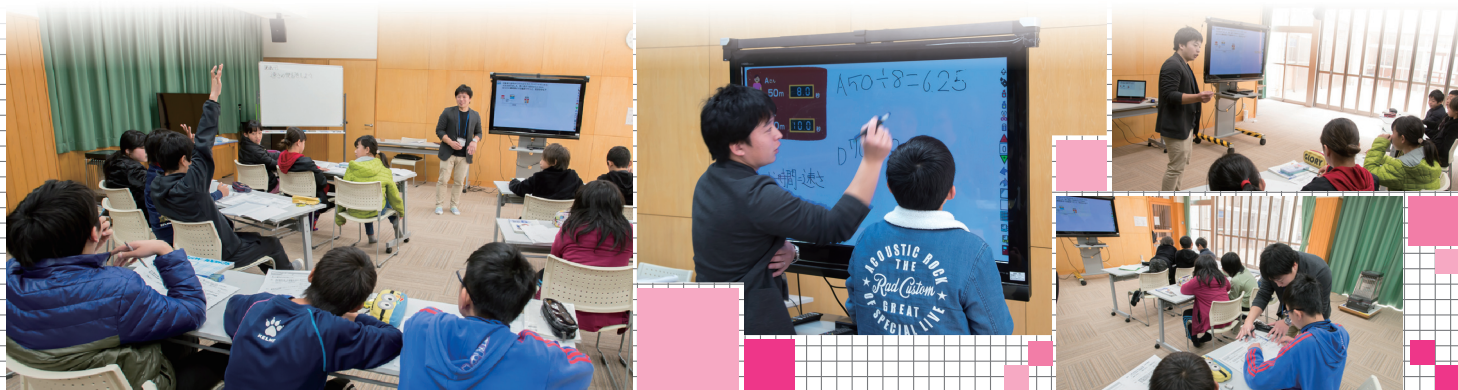


導入事例
てれたっち

Web上で無償提供されている教材を存分に活用して準備を省力化。授業の時間効率がアップ、発展問題も数多くこなせます。



三重県の尾鷲市立宮之上小学校で、中心となって「てれたっち」を活用される谷口亮介先生(6年生担任)にお話を伺いました。谷口先生は、Web上で公開されている様々な教材を効率的に使い、電子黒板の特長を活かした授業を実践されています。その結果、授業の時間効率がアップし、1時間の中でたくさんの問題をこなせるようになったということです。
※先生のご紹介、学校での設置状況などは取材当時のものです。ディスプレイ画面の画像は加工されたものが含まれます。



※ディスプレイは別売りです。

導入商品

外付け型タッチ化ユニット
「てれたっち」

DA-TOUCH / WB

電子黒板の教材コンテンツとして、様々なWebサイトを有効活用

普段はどのような教材をお使いなのでしょう。

谷口先生: 普段は文部科学省のWebサイトなどで情報収集しつつ、使い方を研究しています。探せばインターネット上に教員を支援する様々な教材が提供されていますので、存分に活用しています。既存のコンテンツを活用すれば授業の準備も大きく効率化されます。電子黒板は「動き」を見せることができるのが特長ですから、なるべくその特長を活かせる課題を選んでいます。例えば算数だったら速度について。数人が歩くアニメーションを見せて、比較しながら問題を解いていきます。速度は好例ですが、文字や数字だけだと理解しにくいのに、実際に動きを見てみるとストンと納得でき、理解度がまるで違うということが結構あるものです。

授業では児童の皆さんが「てれたっち」を使って、皆の前で問題を解いていましたね。

谷口先生: 学習のまとめの段階では、「てれたっち」の白板モードを使い、児童にタッチペンを渡して画面上で練習問題を解かせることもあります。この時、画面の隅に問題を表示したままにしておく、問題と解答がセットで表示されてわかりやすいですね。

時間効率の向上により、より多くの問題を解くことが可能に

「てれたっち」を使って練習問題を解いていくことのメリットとは何でしょうか。

谷口先生: とにかく授業のテンポがよくなります。高学年になってくると、いかに問題を多く解いたかで学力に差がつくこともあります。ですから、1時間に1、2問しかこなす時間がない、というようでは話になりません。時間配分の目安は45分のうち、最初の5分が導入、次の15分が共通問題の理解、残りの時間を発展問題を通じての習熟としています。ここで「てれたっち」があると授業効率がアップし、発展問題に使える時間がグッと増えます。フリックするだけで問題が次々に表示され、答えの画面も用意しておけば、テンポよく問題、答え合わせと進み、数をこなせるようになります。黒板に問題を手書きしては、このようにリズムよく進めることはできません。

ICT化の過渡期にあって、新しいものと古いものをつなぐ「てれたっち」

将来の展望についてお聞かせください。

谷口先生: 2018年度からは3、4年生での英語の授業が始まります。小学校では1人の先生が幅広い教科を教えますが、英語の発音まで完璧にこなすのは大変です。そこで使えるのがデジタル教材です。「てれたっち」があれば、手元のパソコンではなく、生徒が見ている同じ画面上で教材を操作できますし、タッチペンで書き込みなど入れながら動画を見ることもできますよね。小学校の英語教育は、「習う」だけでなく、文化に触れて「興味を持つ」ということも大切ですから、「てれたっち」が活躍してくれると期待しています。

これからの教育現場において、「てれたっち」が貢献できる部分も多そうですね。

谷口先生: 「てれたっち」は児童の反応がよく、目に見える効果もあるのでつい多用したくなりますが、使いすぎには注意しています。課題ごとに手段を使い分けて、ベストな授業を組み立てていきたいですね。手書きにも対応している「てれたっち」は、電子化派の先生はもとより、昔ながらの黒板派の先生にも使いやすく、抵抗なく使えるものです。ICT化の過渡期にある現在の学校、また教員にとって、新しいものと古いものをつなぐ役割を担ってくれるものと考えています。

白板モード上に画像表示を行う手順



①ディスプレイに問題を全画面表示し、「てれたっち」の透明モードを重ねる。



②「切り取る」機能で画像コピー。



③白板モードにして、切り取った画像の縮小版を隅に配置。



取材にご協力いただいた先生



尾鷲市立宮之上小学校
谷口 亮介 先生



CLIENT DATA

導入学校 / 尾鷲市立宮之上小学校
所在地 / 三重県尾鷲市
設立 / 1928年